

中国のクロツラヘラサギの越冬分布と保護

王勇軍・管啓杰

広東省福田国家級自然保護区管理处

訳 福井和二

摘要 クロツラヘラサギの中国における越冬分布は、台湾の曾文溪口と広東省深圳湾が中国ではもともと重要な越冬地である。この二カ所のクロツラヘラサギの越冬数は全地球上の71%を占め、増加の傾向にある。しかし、越冬地の生息環境は決して良くはない。速やかな保護の充実が待たれる。

クロツラヘラサギ (*Platalen minor*) はコウノトリ目、トキ科、ヘラサギ属で、アジア東部にわずかに分布しているにすぎない。わが国の東北地方、朝鮮と韓国などで繁殖し、わが国の東南沿海部とベトナム北部沿海地方で多く越冬している。個体数は非常に少なく、わが国では第II級保護動物とされ、国際保護組織もこれに注目し、世界絶滅危惧鳥類としている。

分布状況

1998年1月16～18日の東アジア各地のクロツラヘラサギの観察による結果 (Tom Dahmer, Mary Felley, 私信) は、中国における越冬クロツラヘラサギの個体数の全地球の約74%を占めた (表1)。最近の資料によるとクロツラヘラサギの越冬が観察されるか、その可能性のある地域は十余カ所あり (図1)、そのうち台湾の曾文溪口と広東省深圳湾はクロツラヘラサギの最も重要な越冬地である。1998年1月の全地球上のクロツラヘラサギの個体数は613羽で、そのうち321羽が曾文溪口で越冬し、全体の約52.36%にあたり、深圳湾では113羽が越冬、約18.43%に相当する。以上2カ所のクロツラヘラサギは434羽で全体の約71%を占める。

表1 1998年1月 世界のクロツラヘラサギの個体数分布表

	中国							日本	韓国	ベトナム
	塩城	深圳湾	澳門	東塞港	曾文溪	大肚溪	ao鼓			
個体数	2	113	9	3	321	4	2	75	25	59
総数	-----							75	25	59
対全数比%	-----							12	4	10

個体数の変化

最近のクロツラヘラサギの観察報告によると世界のクロツラヘラサギの個体数は逐次増加しているとみられる (表2)。曾文溪口と深圳湾の2カ所の重要な生息地をみても、明かに増加していることがわかる (表3)。

最近数年来クロツラヘラサギが増加のようすを示していることは、人々を喜ばせている。しかし、世界全体の生息環境、とくに越冬水鳥のための湿地の変化は、クロツラヘラサギに対して危機をもたらしていると分析し、クロツラヘラサギの将来を懸念しないわけにはいかない。あらゆる動物の数の変化は、主に、これらの動物たちの繁殖率と死亡率の高い、低いによって決定され、その繁殖率と死亡率は繁殖地と越冬地の環境と気象条件の優劣にかかっている。渡りをするものたちの越冬生息地の個体群を維持するには、その個体群が増殖する前程がなければならない。ただ、個体数が一定の水準を保つためには、繁殖の成功 (すなわちより高い繁殖率)、総数の増大が

なければならない。クロツラヘラサギの繁殖地の生息環境条件は明かに改善されているとはいえないし、越冬生息地も絶えず大面積の環境破壊にさらされている。現在ある生息地も人類の経済活動の影響が次第に加わり攪乱され、さらに乱猟、乱獲もあり、このような状況のもとでも、クロツラヘラサギの個体数が少しづつ増加している原因は何であろうか？ その生態のなかにどんな理由があるのだろうか。

深圳湾湿地の例によれば、数年来、深圳湾のマングローブ林湿地のクロツラヘラサギは逐次増加しているが(表3)、しかし、近隣の湿地ではかえって減少している。海南島東寨港自然保護区のクロツラヘラサギは、1988~1990に15羽、1992~1993年13羽、1993~1994年9羽、1994~1995年6羽、1996~1997年4羽、1997~1998年3羽となっている。このことは、深圳湾マングローブ林湿地のクロツラヘラサギの個体群増加の主な原因は、近隣生息地が環境破壊を受け、あるいは人間の活動、干渉が加わったことにより、これらの地域のクロツラヘラサギが、新しい越冬地を選択し、深圳湾あるいは他の生息地へ移ったのではないか、このようにして深圳湾マングローブ林湿地のクロツラヘラサギの個体数が増加したのであろう。

クロツラヘラサギの個体数減少と越冬地が多く分散したことによって、それぞれの越冬地の個体数の記録漏れがあったとも考えられ、ある越冬地で環境破壊があり、クロツラヘラサギは、より条件の良い生息地を探して移動しなければならなくなり、残された数少ない越冬地へと、群が比較的集中し、多くの数が観察計測され、それが全体数を確実なものとする結果となった。全世界のクロツラヘラサギの数がけっして増加せず、甚だしく減少しているというが、しかし、観察によるとその数は少しづつ増加している。

生態学の理論からみると、いかなる動物でも生息地を大量に失えば、分布範囲は次第に縮小し、個体群は少しづつ集中し、これらの動物の生存に対しては非常に不利となる。それは、分布域と生息地の面積が減少し、この種を受け入れる環境の収容力が減少し、利用する空間と資源が減少することを意味する。すでに失ってしまった生息地を回復することが不可能な状況では、これらの動物の個体群を回復することも不可能である。個体群の数が集中することにより、密度が増加し、環境への負荷も過重となる。限りある食物資源の過量利用によって復元が困難になり、これらの生態系が適応力を失い、絶滅のおそれのある動物にとって生息環境の選択幅が狭く、非常に危険な状態になる。

表2 1990~1998年 クロツラヘラサギの世界総数の変化

越冬年	1990-1991	1993-1994	1994-1995	1995-1996	1996-1997	1997-1998
総個体数	288	341	422	541~570	540~560	613

表3 1989~1997年間の曾文溪口と深圳湾のクロツラヘラサギの個体数変化

越冬年	1988 ~1989	1989 ~1990	1990 ~1991	1991 ~1992	1992 ~1993	1993 ~1994	1994 ~1995	1995 ~1996	1996 ~1997	1997 ~1998
個体数										
曾文溪口	130	145	150	178	178	192	286	248	298	321
深圳湾	48	42	57	47	73	78	84	99	101	113

主要な越冬地の現状

現在、全世界の71%を占める2カ所の最も重要な越冬地の曾文溪口と深圳湾マングローブ林の

状況は楽観を許すべき現況ではない。

曾文溪口は台湾の台南県七股郷九厝^{チウフツァン}郷近くの干潟で、旧防波堤と新しく作られた防波堤の間にできた、面積約827hm²の汽水湿地である。北には大きな池があり、東は547hm²の湿地で養殖池として開発され、海に面したわずか280hm²の未開発の干潟こそ、世界における総数の67%を占めるクロツラヘラサギが越冬する場所である(図2)。

深圳マングローブ林湿地は深圳湾の東部、深圳河河口の南に香港の米埔自然保護区、面積380hm²があり、北に深圳福田自然保護区がある。福田自然保護区は都市開発により、その面積の約50%ほどを失った。1997年調整の後、368hm²が恢復した。香港米埔自然保護区の東に面して住宅建築群がすぐ近くまで接近している。深圳湾北岸には大規模な埋立工事が進み、深圳河では治水工事が行なわれ、これらの開発により、深圳湾およびその周辺の自然環境は悪化し(図3)、特にマングローブ林湿地周辺、緩衝地帯の生態系破壊は、マングローブ林湿地の自然環境を質的に大きく低下させた。

保護のための提案

分布範囲が広く、生息地の広い動物でも、その生息地が破壊されたとき、そこに残された個体群に甚大な影響があり、世界の総数に対して顕著な影響がないとはいえない。しかも、生息地の甚だ少ない動物にとっては、生息地における如何なる不利な変化も、その動物種の数には明らかに影響を与える。

このような変化は数の少ない絶滅危惧種に対する影響が甚だしく、生死にかかわるほどに至る。これにより、動物に対する保護、特に今絶滅の危機に瀕している動物に対する保護は、すなわち、彼らの生存を保証する生息地の環境を保護することである。

包囲されたクロツラヘラサギのわずかな冬季生息地は、クロツラヘラサギの最後の“避難場所”であり、しかもこの最後の“避難場所”でさえ再び破壊されるならば、クロツラヘラサギの絶滅は疑うべきもない。このように厳しい状況に臨んで、我々は次のように提案する。

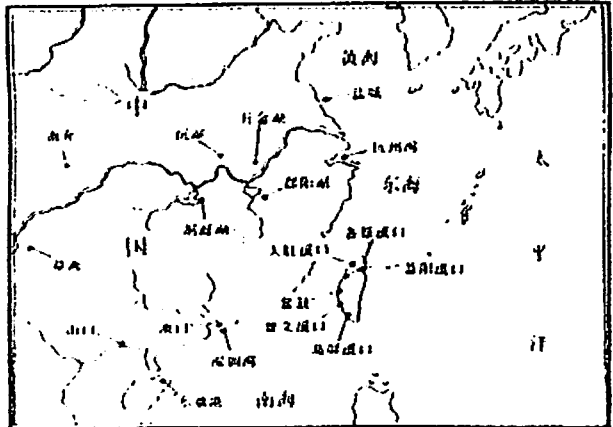


図1 わが国におけるクロツラヘラサギの越冬分布

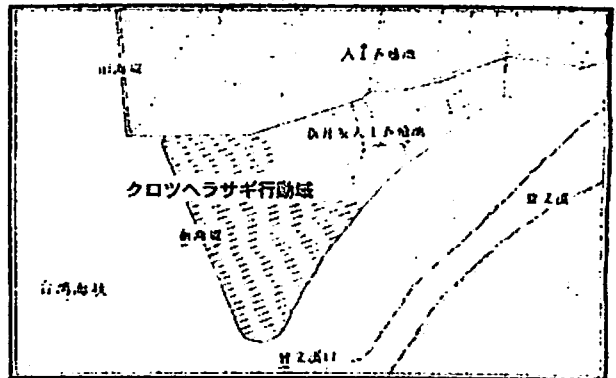


図2 台湾のクロツラヘラサギ越冬地曾文溪口

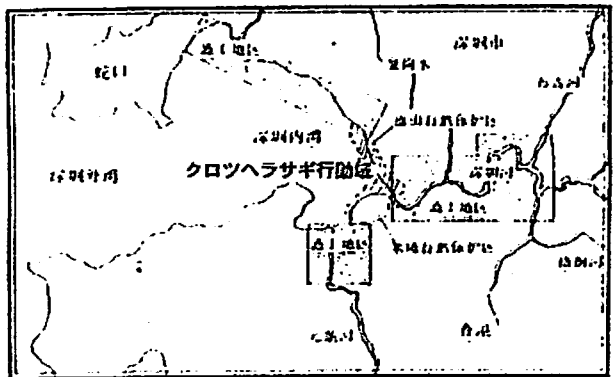


図3 中国のクロツラヘラサギ越冬地深Zhen湾

状況は楽観を許すべき現況ではない。

曾文溪口は台湾の台南県七股郷九厝^{ニウフウマツリン}近くの干潟で、旧防波堤と新しく作られた防波堤の間にできた、面積約827hm²の汽水湿地である。北には大きな池があり、東は547hm²の湿地で養殖池として開発され、海に面したわずか280hm²の未開発の干潟こそ、世界における総数の67%を占めるクロツラヘラサギが越冬する場所である(図2)。

深圳マングローブ林湿地は深圳湾の東部、深圳河河口の南に香港の米埔自然保護区、面積380hm²があり、北に深圳福田自然保護区がある。福田自然保護区は都市開発により、その面積の約50%ほどを失った。1997年調整の後、368hm²が回復した。香港米埔自然保護区の東に面して住宅建築群がすぐ近くまで接近している。深圳湾北岸には大規模な埋立工事が進み、深圳河では治水工事が行なわれ、これらの開発により、深圳湾およびその周辺の自然環境は悪化し(図3)、特にマングローブ林湿地周辺、緩衝地帯の生態系破壊は、マングローブ林湿地の自然環境を質的に大きく低下させた。

保護のための提案

分布範囲が広く、生息地の広い動物でも、その生息地が破壊されたとき、そこに残された個体群に甚大な影響があり、世界の総数に対して顕著な影響がないとはいえない。しかも、生息地の基だ少ない動物にとっては、生息地における如何なる不利な変化も、その動物種の数には明らかに影響を与える。

このような変化は数の少ない絶滅危惧種に対する影響が甚だしく、生死にかかわるほどに至る。これにより、動物に対する保護、特に今絶滅の危機に瀕している動物に対する保護は、すなわち、彼らの生存を保証する生息地の環境を保護することである。

包囲されたクロツラヘラサギのわずかな冬季生息地は、クロツラヘラサギの最後の“避難場所”であり、しかもこの最後の“避難場所”でさえ再び破壊されるならば、クロツラヘラサギの絶滅は疑うべきもない。このように厳しい状況に臨んで、我々は次のように提案する。

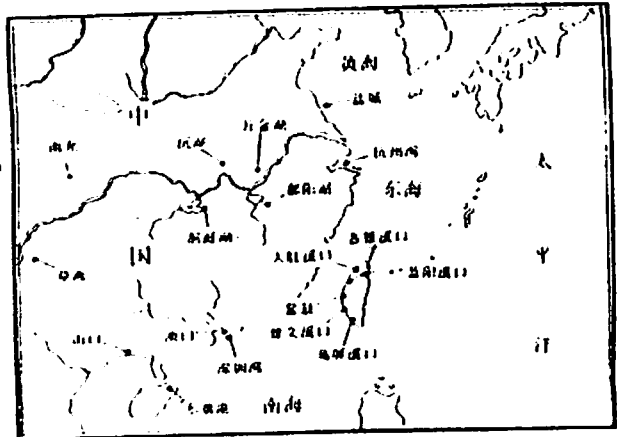


図1 わが国におけるクロツラヘラサギの越冬分布

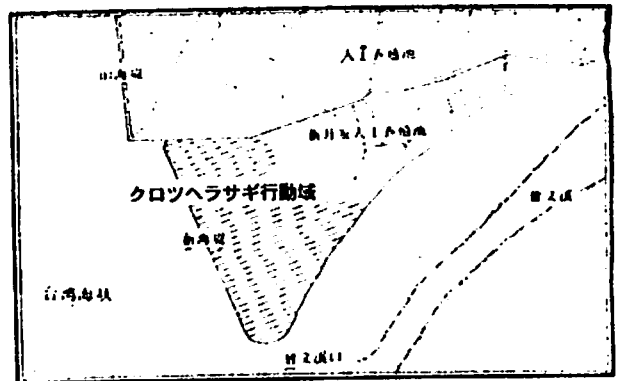


図2 台湾のクロツラヘラサギ越冬地曾文溪口

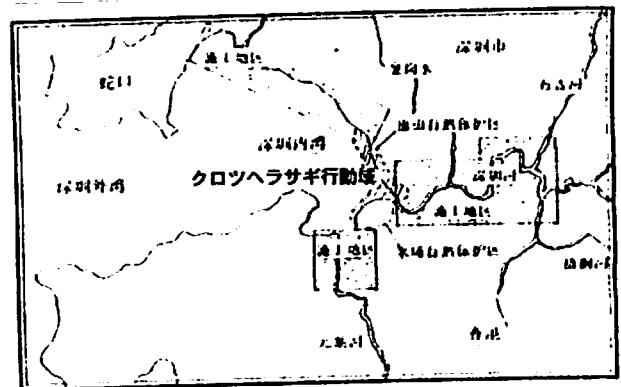


図3 中国のクロツラヘラサギ越冬地深Zhen湾

(1) 将に絶滅に瀕しているといえる数の、クロツラヘラサギを国家Ⅰ級保護動物に指定すること。

(2) クロツラヘラサギの越冬地である湿地での、いっさいの開発行為を禁止し、現在の生息環境を維持する。さらに現在自然保護区以外の、クロツラヘラサギの越冬生息地を、すぐさま保護区に指定し、法による保護を進めること。

(3) 日本、朝鮮、韓国、ベトナム等クロツラヘラサギの分布している国と保護条約を締結し、国際組織の支持と協力を得て、内外各方面のクロツラヘラサギに対する保護を促進する。

(4) クロツラヘラサギに対する観察調査、生息環境調査など、国際的な共同研究を統一的に進め、クロツラヘラサギの渡りと越冬の生態を解明し、保護に対してよりよい資料の提供を求める。